

GCI

2023 Interim Business Report

第107期 中間報告書
2023年4月1日～2023年9月30日

群栄化学工業株式会社

証券コード：4229

01 トップ インタビュー



05 ニュース & トピックス



※植物由来原料から作った保湿性化粧品原料
詳しくは5ページをご覧ください。

06 サステナ ビリティ



「次」を見据えて成長投資を進めつつ、 中期経営方針を着実に遂行していきます。



代表取締役 社長執行役員
有田 喜一郎

Q 上期を振り返り、営業状況と決算内容をご説明願います。

A 化学品事業の営業状況を振り返ると、環境関連向け高機能繊維は溶剤回収用途等が、断熱材用樹脂は倉庫等の非住宅向けがそれぞれ堅調に推移しました。また、自動車関連向け樹脂も国内生産台数の回復により増加しました。一方、電子材料関連向け樹脂はスマートフォンなどのメモリ需要低迷により、工作機械向け樹脂は中国の景気低迷による影響を受けそれぞれ低調に推移しました。

海外における化学品事業の展開は、前期から続いた原材料価格等のコスト上昇に価格は正が追いついたタイヤ会社が黒字転換を遂げ、インド子会社も高品質なRCS（レジンコートッドサンド）の認知度拡大とともに自動車関連の需要を捉え、販売を伸ばしました。米国子会社は、自動車ブレーキ用樹脂が低調となったものの、近年注力している高機能繊維「カインール」の販売が伸長し

ました。

食品事業の営業状況は、行動制限の緩和による経済活動の活発化の影響により外食産業をはじめとする業務用需要は回復傾向となりました。一方、飲料向けは物価上昇を受け節約志向の強まりにより販売数量が減少しましたが、原材料価格等高騰分を価格は正したことで増収となりました。

損益面においては、化学品事業は原材料価格等高騰分の価格は正に取り組み、在外子会社の利益改善を行ったことから増益となりました。食品事業においても原材料価格等高騰分の価格は正に取り組み、収益性が改善したことから黒字回復を果たしました。

結果として上期の連結業績は、売上高156億18百万円（前年同期比1.2%減）、営業利益16億6百万円（同79.5%増）、経常利益18億37百万円（同74.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益12億69百万円（同70.9%増）となり、期初の予想を上回る増益を確保することができました。



現在進めている生産増強計画について お聞かせください。



電子材料分野の市況は、足もとでは停滞が続いているものの、中長期的には市場の成長とともに旺盛な需要が見込まれることから、当社は今後の需要拡大に備え、フォトレジスト用樹脂など電子材料関連向け製品の生産増強を図っています。現在は約10億円を投じた群馬工場の生産増強工事が進捗しており、来春以降に稼働する予定です。

また、環境対応ケミカルとして販売を伸ばしている高機能繊維「カイノール」についても、溶剤回収用途の需要拡大に対応すべく、前期に群馬工場ラインの付帯設備を整備し、生産増強を図りました。引き続き当期は、キャパシティをさらに引き上げるべく約16億円を投資し、生産ラインの増設工事を進めています。新たな生産ラインは、2025年の稼働を予定しており、これにより「カイノール」の生産能力は、2021年比で合計約70%アップする見込みです。「カイノール」は、溶剤の再利用によるサーキュラーエコノミー実現への寄与が期待されており、生産増強と並行して用途開発にも注力していく方針です。

もう一つの生産増強計画は、インド子会社におけるRCSの増産対応です。近年、現地においてRCSの品質への評価が高まり、二輪車及び四輪車向けの採用が増加していることから、工場移転及び生産能力倍増への投資を決定しました。高品質を強みとして活かすべく、シェア拡大に向けた供給体制を構築します。



中期経営方針に基づく取り組みの 進捗はいかがですか？



当社は、2022年度から2024年度までの3カ年を期間とする「GCIグループ中期経営方針2024」を推進中です。本方針は、電子材料分野における「高純度・先端材料」と、Green分野における「環境対応ケミカル」「高機能糖ケミカル」を主要ターゲットとし、これに「経営基盤強化」を加えた4軸に基づき、成長戦略を進めていくものです。その取り組みは、前期の始動から当上期までの1年半で着実に進展しています。

「高純度・先端材料」は、事業拡大に向けた重点投資の実行として、前述の通り電子材料向け製品の生産増強が順調に進んでいます。また、先端材料分野の開発については、お客様と共同で半導体周辺材料向けの新製品の開

発に取り組んでいるところです。

Green分野の「環境対応ケミカル」は、製品拡販の成果として高機能繊維「カイノール」の売上が大幅に増加しており、こちらも先に述べましたように生産増強を進めています。「高機能糖ケミカル」の方では、糖化技術を活用した高付加価値製品として、植物性ミルク「オーツミルクの素」の本格販売を開始した他、化粧品原料の開発に取り組み、一部製品の量産を開始しています。

そして「経営基盤強化」では、CO₂排出量の削減や気候変動リスクへの対応などを中心とするサステナビリティ課題、業務効率の改善に向けたデジタル化の促進、人的資本の価値向上に注力しています。

本方針は、2024年度連結業績における「売上高350億円」「営業利益40億円（営業利益率11%）」を財務目標とし、Green分野を電子材料分野に次ぐ収益の柱にすべく、事業ポートフォリオ変革を推進する考えです。足もとでは電子材料市況の落ち込み等により、目標達成は厳しい状況にありますが、残る1年半の取り組みで、ここに述べました成長戦略をしっかりと成果につなげてまいります。



通期業績の見通しと配当について お聞かせください。



下期は、引き続き化学品の堅調な需要が見込まれるものの、電子材料市況の停滞が想定より長引いていることに加え、中東情勢の緊迫化を受け、原油価格の高騰など外部環境の更なる悪化が懸念され、また、食品事業においても、原材料価格の高止まりが続いています。その中で当社は、利益の確保に向けてコストダウン施策や価格是正を進めつつ、「次」を見据えた成長投資を確実に実行していきます。

以上を踏まえ通期の連結業績は、売上高310億円（前年同期比1.2%減）、営業利益24億円（同44.6%増）、経常利益26億円（同34.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益18億円（同49.8%増）を予想しています。

今回の中間配当は、配当性向30%を目途に安定的な配当を行っていく方針に基づき、予定通り1株当たり45円といたしました。期末配当も同45円を予定しており、年間配当は同90円（前期同額）となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、“Green・Chemical・Industry (GCI)” への進化を目指す当社の挑戦にご期待いただき、今後とも長きにわたるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結決算ハイライト (当中間期の業績)

売上高

15,618百万円

(前年同期比1.2%減)



経常利益

1,837百万円

(前年同期比74.3%増)



親会社株主に帰属する
四半期純利益

1,269百万円

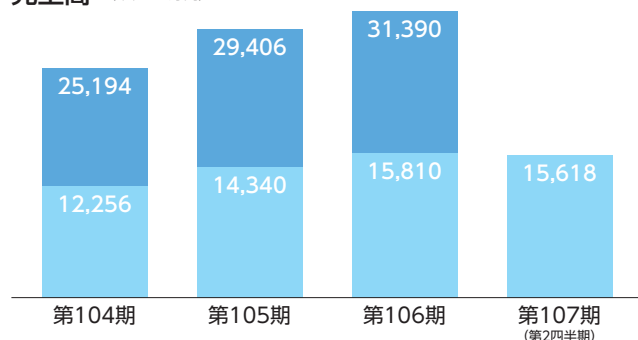
(前年同期比70.9%増)



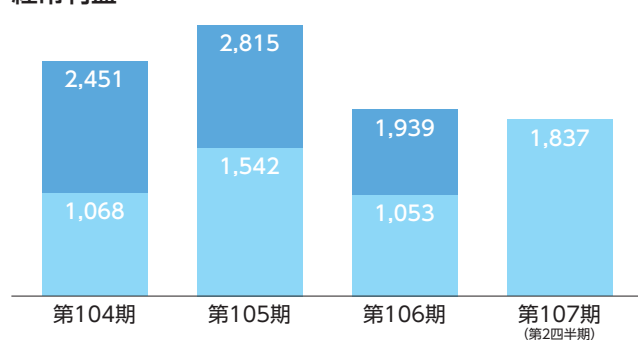
業績の ポイント

- ポイント 1 化学品事業及び食品事業ともに原材料価格等高騰分の価格是正を行ったものの、一部製品の販売数量の減少により全体では前年同期と比較して減収
- ポイント 2 原材料価格等高騰分の価格是正に取り組んだこと並びに在外子会社の利益改善を行った結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益

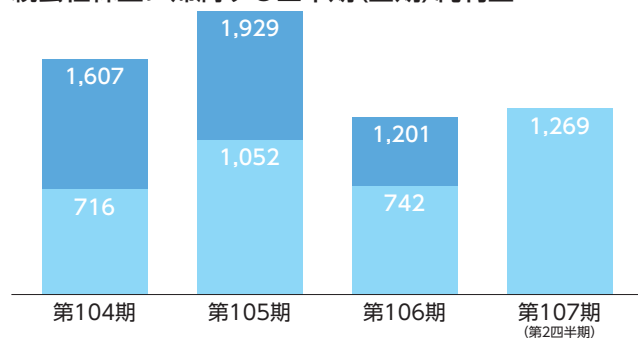
売上高 (単位:百万円)



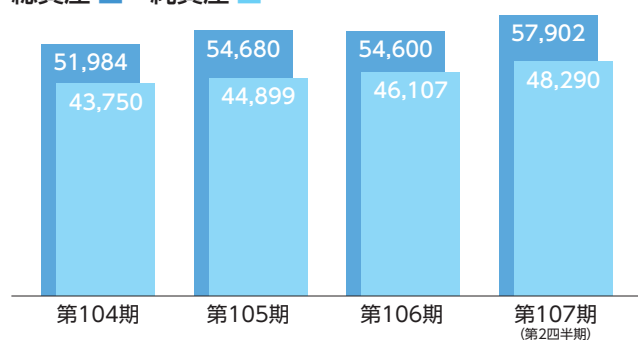
経常利益 (単位:百万円)



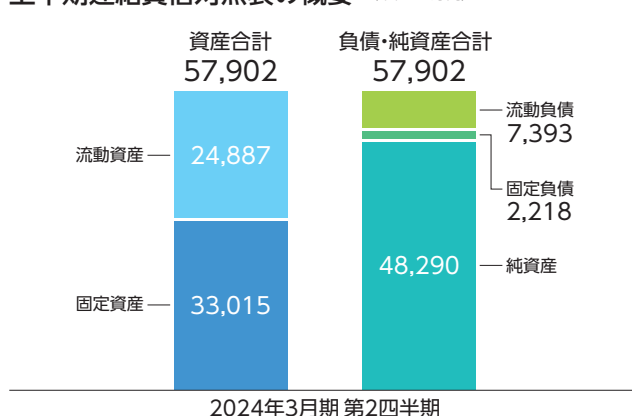
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



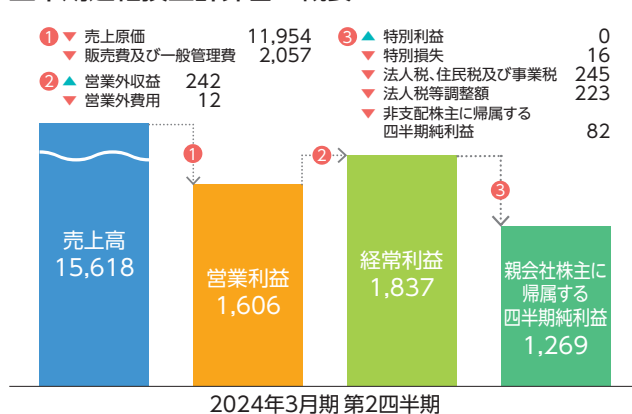
総資産 ■ 純資産 (単位:百万円)



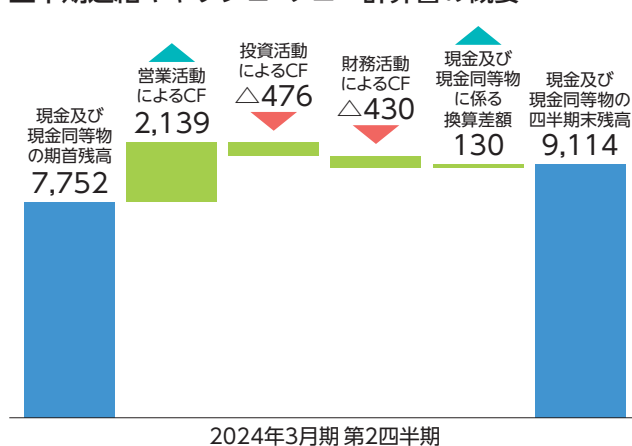
上半期連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



上半期連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



上半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



最新・詳細情報につきましては当社のIRサイトをご覧ください。
<https://gunei-chemical.co.jp/ir/>

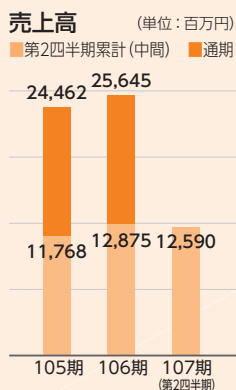
化学品事業

合成樹脂・高機能繊維の製造及び販売

- ▶ 高機能繊維、断熱材用及び自動車関連向け樹脂は堅調に推移、その他用途向けは低調に推移。

売上高 **12,590百万円**
(前年同期比2.2%減)

営業利益 **1,407百万円**
(前年同期比55.3%増)



■高機能繊維「カインール」



「フェノール樹脂」を繊維にした高機能繊維「カインール」は、宇宙開発の研究から生まれ、当社が世界で唯一製造・販売しています。防炎性、耐熱性、断熱性、耐薬品性などの特長を有し、防災・安全用途や各種複合材に用いられるほか、活性炭繊維の優れた吸着性は溶剤回収用途等の環境調和分野にも使用されています。

当社の主要製品

■工業用フェノール樹脂「レドトップ」



電子半導体材料・自動車産業・住宅産業などあらゆる産業分野に不可欠な機能材料として使用されています。

主な用途

電子材料産業においては、シリコンウェハーに回路を形成する際に用いられるフォトリソレジストインクや半導体封止剤などに「フェノール樹脂」が活用されています。自動車等の各種鋳物産業においては、鋳物の鋳造に使われる砂型のバインダとして、「フェノール樹脂」は鋳造業界で欠かせない存在となっています。



住宅産業においては、ガラス繊維に「フェノール樹脂」を吹き付けてできる繊維マットが断熱・防音材として用いられるなど、住宅の施工に広く使われています。

■3Dプリンタ用材料

3Dプリンタは世界各国で国家プロジェクトにより活発な開発が進められており、当社は、日本の国家プロジェクト（2013年から2018年）に参画しました。鋳物業界で長年培ってきた当社の技術は鋳造用バインダ用途に活用されています。また、高耐熱プラスチック材料製品を自社開発し、製造販売及び成形品の提案も行っています。

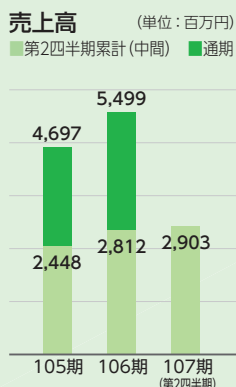
食品事業

でんぷん糖類の製造及び販売

- ▶ 行動制限の緩和により外食産業をはじめとする業務用需要が回復、原材料価格等高騰分の価格は正により黒字転換。

売上高 **2,903百万円**
(前年同期比3.3%増)

営業利益 **120百万円**
(前年同期比ー)



■保水性糖質素材「ピュアトース®」

「ピュアトース®」は、主成分であるマルトトリオースが食品中の水を安定化します。その結果、食品にしっとり感を付与し、食品が硬くなる現象(でんぷんの老化)を抑制します。また、低甘味で素材の風味を引き立てることができ、幅広い食品で利用されています。



当社の主要製品

■スリーシュガー (JAS果糖ぶどう糖液糖/JASぶどう糖果糖液糖)

JAS果糖ぶどう糖液糖(果糖分55%)、JASぶどう糖果糖液糖(果糖分42%)、これらに砂糖を混合した異性化液糖製品があります。砂糖よりすっきりとした甘味が特徴です。また、冷たいほど甘味が強くなるので、清涼飲料や冷菓に最適です。

■コーソブル群衆 (JAS精製ぶどう糖)

JASの基準に合致した、高品質、高純度のぶどう糖です。ぶどう糖は直接体内に吸収されるため、すぐれたエネルギー源となります。また、砂糖や果糖とも相性よくとけあいます。各種菓子類をはじめ、水産練製品、酒類、医薬品など、幅広くご使用いただけます。

■酵素水飴

当社独自の技術で製造された水飴は、ほどよい甘みと独特の粘りが特徴で、食品のデリ、ツヤ、コクを出すのに最適です。

■グンエイオリゴS

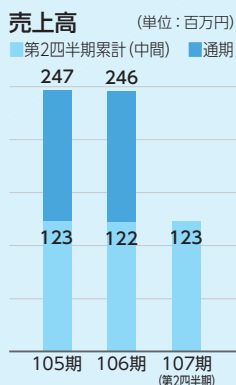
単糖が数個結びついたオリゴ糖は、人間の消化酵素で分解されないため、そのまま大腸に到達し、代表的な善玉菌であるビフィズス菌の増殖を助ける生理効果を持っています。当社のイソマルトオリゴ糖は、こうした生理効果を持ちながら、うま味、コク味も併せ持ち、健康ニーズにお応えしています。

不動産活用業

- ▶ 前年同期並みで堅調に推移。

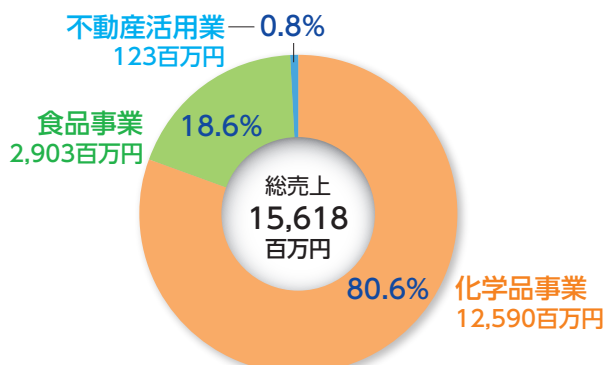
売上高 **123百万円**
(前年同期比0.9%増)

営業利益 **79百万円**
(前年同期比12.1%増)



事業別売上高構成(連結)

2023年4月1日～2023年9月30日



(注) 構成比率は、小数点第2位を四捨五入しております。

GCIグループ中期経営方針 2024

▶ **長期ビジョン**
(ありたい姿) 合成・糖化技術の開発・再構築によりグローバルにソリューションを提供し、社会の持続的成長に貢献できる **“Green・Chemical・Industry (GCI)”** となる

▶ **基本方針**

1. 新規事業創出のための基盤作り	2. サステナビリティを巡る課題への取り組み
3. 経営基盤の強化	4. 生産性向上、収益力強化

▶ **4つの目指す方向性**

① 高純度・先端材料

② 環境対応ケミカル

③ 高機能糖ケミカル

④ 経営基盤強化

電材分野

Green分野

長期ビジョン実現に向けた取り組み

環境対応ケミカル 当社オンリーワン製品「カイノール」需要拡大 & 専用サイトを公開予定

近年、大気汚染などの環境問題がクローズアップされる中、特定の化学物質に対して優れた吸脱着性能をもつ当社オンリーワン製品「高機能繊維 カイノール」の活性炭繊維が、溶剤回収等の用途でお客様のニーズに応えております。2022年度に既存設備の増強投資を行い生産量30%アップ、また、更なる需要拡大を見込み生産ラインを増設することを決定。2025年度稼働開始に向け、今春より増設工事を開始しております。

また、今後はカイノール専門のwebサイト「Kynol.com」を公開する予定です。サイトの目的は、Green Chemicalの中心であるカイノールをグローバルにPRすることにあります。環境対応製品に対する需要増加等の変化をチャンスに変えるため、グローバルにソリューションを提供するカイノールをはじめとした「環境対応ケミカル」材料の更なる開発及び用途探索を行ってまいります。



カイノール専門サイト「Kynol.com」が公開されましたら当社ホームページにてお知らせいたします。
<https://www.gunei-chemical.co.jp>



高機能糖ケミカル 糖鎖化学の技術を活かし、高機能化粧品原料を量産開始

Green分野の開発商品として、天然物を用いた化粧品原料の展開を進めています。現在、化粧品市場では天然物を利用した製品の指向性が高まっています。糖類の多くは水溶性であり保湿性などの機能がありますが、さらに付加価値を付けるべく、当社がこれまで培ってきた糖鎖に関する知見、化学合成技術や分析技術を融合させた商品の開発を目指しております。先行して開発・販売を行ってまいりました化粧品原料用途向けのアルキルグルコシドは、量産を開始しました。

さらに新規商品についてはスピード感をもって上市するために、化粧品としての評価技術確立に取り組んでまいりました。構築した評価技術をもとに糖鎖を用いた新たな保湿性化粧品原料「GS-HAG3」を開発し、市場へのサウンドを開始しました。現在複数社から採用をいただき、今後さらに幅広く市場へ展開してまいります。糖鎖の化学は奥が深く、さらに多くの研究開発テーマがあるものと考えており、引き続きGreen分野での飛躍を目指し挑戦してまいります。



植物由来原料から作った保湿性化粧品原料

経営基盤強化 India GCI Resitop Private Limitedの生産力を増強

当社グループ会社のIndia GCI Resitop Private Limited (IGCI)はインド国内で鑄造用の砂型を造る材料のRCSを製造・販売しております。経済成長の追い風の中、同社で培ったRCS技術が客先の鑄造品の品質改善に寄与し、業界の支持を得たことでその需要が拡大していることから工場の移転及び設備増強を決定しました。これによりRCS生産能力を従来の2倍に引き上げ、更なる業績拡大に努めてまいります。

また今後の展望としてIGCIではインド国内における鑄造用バインダーの新規参入検討に加え自動車ブレーキパッド用特殊フェノール樹脂である「Milex」やGCI独自の高機能繊維「カイノール」等のニーズ調査に邁進していきます。



IGCI新工場外観

GCIグループのサステナビリティ

わたしたちGCIグループは「化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、より豊かな未来社会創りに貢献する」という企業理念に基づき、以下に掲げる指針に沿ってステークホルダーとの強固な信頼関係を構築し、サステナビリティを巡る課題への対応に積極的に取り組んでまいります。



GCIグループの
サステナビリティ

ESG	GCIグループのサステナビリティ	SDGs 17の目標
E	循環型社会の形成を目指し、地球環境の保全に努めます	3 持続可能な開発のための目標を達成する 4 質の高い教育をみんなに 7 エネルギーをみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを 17 パートナリシップで目標を達成しよう
S	基本的人権・多様性の尊重、公正な評価により働きやすい職場環境づくりに努めます	3 持続可能な開発のための目標を達成する 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を推進しよう 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナリシップで目標を達成しよう
S	健康で豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します	1 貧困をなくそう 2 健康をこころに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 6 安全な水とトイレを世界中に 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを 17 パートナリシップで目標を達成しよう
G	製品の品質・生産性の向上及び安全性確保に努めます	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう
G	法令、社会規範、社内規程・規則を遵守し、公正な事業活動を行います	3 持続可能な開発のための目標を達成する 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 14 海の豊かさを 15 陸の豊かさを 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

当社ホームページにおいて、女性活躍推進法に基づく行動計画を掲載しており、目標・スケジュールを設定して女性管理職の割合向上・労働環境の整備を目指しております。また、人材の多様性の確保に向けた「人材の育成に関する方針」及び「社内環境整備に関する方針」につきましても当社ホームページに掲載しております。

GCIグループの「人材の育成に関する方針」
及び「社内環境整備に関する方針」
[https://www.gunei-chemical.co.jp/
company/sustainability5.html](https://www.gunei-chemical.co.jp/company/sustainability5.html)



気候変動対策及び開示に対し、CDPより「マネジメントレベル(B-)」の評価を取得

CDPは企業や自治体等の環境に対する取り組みや情報開示を評価する非営利団体であります。国内外で約20,000の組織が質問書に回答しており、現在では東証プライム市場に上場する全ての企業が調査対象となっております。

当社はCDPより、気候変動対策及び開示に対する評価として「B-」評価を取得しております。「B-」スコアは、気候変動関連の取り組みが「マネジメントレベル(9段階中4段階目)」と評価されるものであり、環境リスクやその影響に対するアクションをとっていると評価されたことを意味しています。



グローバルなサステナビリティ評価において、ブロンズ(上位50%企業)に格付け

EcoVadis(エコバディス)は、企業の環境や社会的慣行の改善を目指して設立された、企業サステナビリティ関連の取り組みについて評価を行う国際機関であり、これまでに世界160か国・200業種・75,000社以上の企業が評価を

受けております。多くのグローバル企業が、ESG観点からエコバディス社の評価結果をサプライヤー選定における重要な基準の一つとして参照しております。

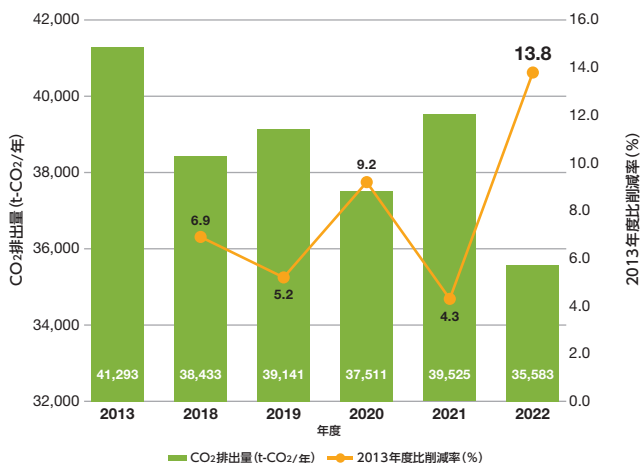
当社は、EcoVadis(2023)のサステナビリティ評価において「ブロンズ」に格付けされています。「ブロンズ」は、対象企業のうち、スコアが上位50%以内の企業が認定されるものです。

CO₂排出量の削減

当社グループは2030年度CO₂排出量30%削減(2013年度比、Scope 1・2)を目標に掲げております。

当社単体では、Scope 2において実質CO₂フリー電力の導入を決定し、2022年度は電力の約40%相当の導入を実施いたしました。今後も段階的に導入率を見直してまいります。

また、環境負荷低減への取り組みとして、製造工程において廃液の発生量が多い一部の製品に関して、廃液発生量の抑制に成功し、廃液の処分工程で発生するCO₂排出量の削減を可能としました。今後も対象製品の拡大を進め、引き続き環境対応型製品の技術開発に取り組んでまいります。

CO₂排出量(マーケット基準)の推移

会社の概要

商号	群栄化学工業株式会社 Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd.
設立	1946年1月23日
資本金	50億円
従業員数	541名(連結)

役員

代表取締役会長	有田 喜一	常勤監査役	笠原 勲
代表取締役 社長執行役員	有田 喜一郎	社外監査役	二宮 茂明
取締役 執行役員	丸山 克浩	社外監査役	大西 勉
社外取締役	大村 康二		
社外取締役	平澤 洋一		

株式情報

Stock Information

(2023年9月30日現在)

株式の状況

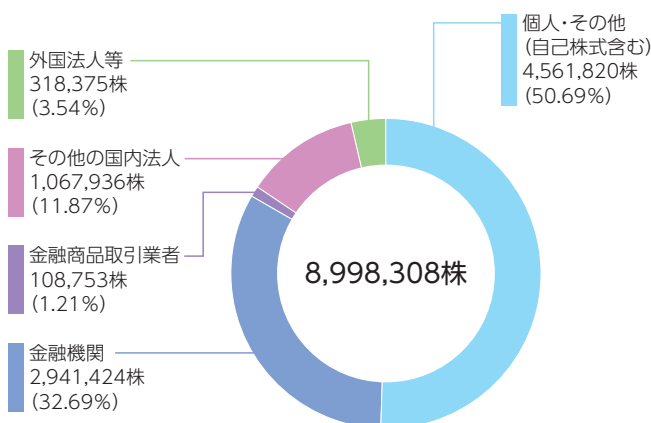
発行可能株式総数	17,621,100株
発行済株式総数	8,998,308株
株主総数	5,157名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ 三井化学株式会社退職給付信託口)	578,500	8.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	542,500	8.18
群栄化学取引先持株会	505,942	7.63
株式会社群馬銀行	304,512	4.59
株式会社横浜銀行	245,853	3.71
三菱UFJ信託銀行株式会社	232,700	3.51
光通信株式会社	193,100	2.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	187,377	2.83
東京応化工業株式会社	168,330	2.54
株式会社みずほ銀行	160,537	2.42

(注)持株比率は、自己株式(2,368,532株)を控除して計算し、小数点第3位を四捨五入しております。

所有者別株式分布状況(株式数)



(注)持株比率は、小数点第3位を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告 URL https://www.gunei-chemical.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
幹事証券	野村證券株式会社 みずほ証券株式会社 SMBC日興証券株式会社

(お知らせ)

1 ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2 中間配当金計算書について

同封いたしております「中間配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。
なお、配当金を証券口座でお受取り(株式数比例配分方式)の株主様は、お取引のある証券会社へご確認ください。

3 マイナンバーのお届出について

2016年1月より利用開始されたマイナンバーですが、こちらは株式の税務関係手続きでも必要となります。このため、株主様はお取引の証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いいたします。

【株主様のマイナンバーの利用用途】

税務署に提出する支払調書(※)への記載

※配当金等に関する支払調書

単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

【マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先】

●証券口座にて株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問い合わせください。

●証券会社とのお取引がない株主様

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

0120-232-711 (通話料無料)